

はじめに

■大学生の知の情報ツール、そしてスキル

大学に入学前事前教育や、初年次教育が取り入れられるようになって10年程が経ちました。そこでは、主として大学組織の説明や、大学での講義の受け方及び、学習の仕方といった内容が取り扱われています。これらの初年次教育が盛んに行われる背景としては、さまざまな要因が挙げられていますが、最も大きな要因は、コンピュータやスマートフォン、インターネットの普及によるものであると、筆者は思っています。従前においても、『知的生産の技術』（梅棹忠夫著、岩波書店）等に代表されるように、知的活動方法や技術に関する内容はしばしば取り扱われてきました。しかし今、それが大きく取り上げられるのは、コンピュータやスマートフォン、インターネットの普及によって、それらの方法が大きく変化しているからです。これらの情報端末やネットワーク・システムは、従前の資料の検索や手書きの文書作成に替わるツールとして、今、知的活動や社会における業務方法を大きく変えているのです。

最近では、AI（人工知能）、深層学習といった新しい技術による、大きな社会変革が進み、職業・雇用形態・産業構造までもが変わりつつあります。このAIや深層学習を支える技術は、コンピュータとネットワーク、そしてデータ解析技術です。これから社会を考えるために、AIや深層学習、そしてその根本となるコンピュータの構造やその利用方法、技術を理解しなければなりません。一方、携帯電話やスマートフォンの利用者が増大し、最近ではパソコンを持たない大学生も見られるようになりました。携帯電話やスマートフォンは、さまざまな情報検索、mail、ゲームなどができる非常に便利な情報ツールです。しかし、これらの情報機器をツールとして用いる場合でも、整った客観的な文章、しっかりとした情報検索、数理的なデータ分析、ビジネスにおける業務等は、現時点ではやはりコンピュータでしかできないのです。これからを生きる皆さんには、スマートフォンや移動体通信と共に、コンピュータに関する知識や技術を身に付けなければなりません。

本書では、このコンピュータやネットワーク・システムについての理解、そして大学生の知の情報スキル向上という側面に焦点を当て編集をしました。

■大学での知の活動

大学ではさまざまな知的活動を行っていきます。まず、講義を受講しますが、講義は話を聞いてそれで終わりという訳ではありません。正確な知識や理解を得るために、情報検索と収集が必要ですし、内容がある程度まとまると、レポートや論文を書くことが求められます。クラスやゼミナールで発表し、教員や他の学生諸君と議論をする機会も多くあります。そのため、発表資料の作成や発表の仕方も学ばなければなりません。大学におけるこのような知的活動には、コンピュータやインターネットが欠かせない必須アイテムです。従って、大学での知的活動は、このコンピュータをどのくらい駆使できるかということにかかってくるのです。

このような観点に焦点を当て、本書は、以下のような構成としました。執筆者とともに記しておきます。

第1章 大学生における知の活動	森 園子・永田 大
第2章 Word2016 を使った知のライティングスキル	永田 大・谷口厚子・森 園子
第3章 Excel2016 による知のデータ分析とその表現	森 園子・池田 修・谷口厚子
第4章 PowerPoint2016 による知のプレゼンテーションスキル	守屋康正・森 園子
第5章 Google を用いた知の情報検索と クラウドコンピューティング	永田 大・森 園子

■本書で学ぶ学生諸君へ

このテキストは、「コンピュータに初めて触れる」または「少し知っているけれどもより進んだ知識や操作を習得したい」という学生諸君を対象として、コンピュータ技術および、基礎的な知識が得られるよう編集しました。

なお、本書で用いた各種の課題、練習問題および総合練習問題のファイルは、下記 URL にアップロードされています。御活用ください。

URL:<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320124257>

この知の情報スキルは、皆さんの新しい可能性を大きく広げてくれることでしょう。1年間の講座を終えた後も、時々開いてみてください。

本書で学び、知の情報ツールとしてのコンピュータやネットワークに関する知識と技術を身に付けた皆さん、自らの新しい世界を開いてくれることを、そして、本書が皆さんの良き礎、書となることを願っています。

本書の執筆に当たっては、時間が限られていたこともあり、不足・不備な箇所が多々あることと思います。本書をお使いになられた各先生方の御指南を受け、進化する ICT とともに本書もさらなる進化を目指しております。

末筆ながら、御多忙中執筆に当たってくださった各先生方、さらに今回の企画と編集を進めてくださった、共立出版の寿日出男氏ならびに中川暢子氏に、心より感謝の言葉を申し上げます。

2017年10月

拓殖大学政経学部
森 園子